

統計センターの役割・業務等の在り方に関する研究会（第1回）議事概要

- 1 日時 平成 18 年 3 月 29 日（水）16 時 30 分～18 時 30 分
- 2 場所 総務省第 2 庁舎 6 階特別会議室
- 3 出席者
構成員：坂東眞理子座長、飯島英胤委員、飯塚悦功委員、佐藤博樹委員、清家篤委員
総務省：衛籐英達統計局長、田口和也総務課長
独立行政法人統計センター：中川良一理事長、鈴木少慈理事、鈴木基之理事、
佐伯修司総務課長
- 4 議題
 - (1) 会議の進め方について
 - (2) 統計センターの現状について
 - (3) 統計センターをめぐる問題点・課題等について
 - (4) その他
- 5 配布資料
 - (1) 「統計センターの役割・業務等の在り方に関する研究会」の開催について（案）
 - (2) 統計センターの変遷と定員（常勤職員数）の推移、統計センターの業務について
 - (3) 統計センターをめぐる問題点、課題等
- 6 議事の概要
 - (1) 開会、委員及び総務省側（統計センター含む。）出席者の紹介に引き続き、衛籐統計局長、中川理事長から、研究会開催に当たり挨拶があった。
 - (2) 座長に坂東眞理子委員が選任された。
 - (3) 会議の進め方について、資料(1)のとおり了承された。
 - (4) 事務局から、資料(2)に基づき、統計センターの現状について説明が行われた。説明の後、質疑応答が行われた。
主な質問、意見等は以下のとおり。
経営理念について、目標を 3 つ掲げているが、その達成度はどうやって判断されているのか。
我々が検討するのは、統計センターに与えられている業務の範囲内に限定して考えるのか。

既に設置されている総務省の独立行政法人評価委員会が、中期目標に基づく統計センターの業績評価を行っているが、我々は、(その評価委員会と)同じことを期待されているのではなく、将来に向けた新たな役割や業務の在り方について議論するものとの理解でよいのではないか。

(5) 事務局から、資料(3)に基づき、統計センターをめぐる問題点、課題等について説明が行われた。説明の後、質疑応答及び意見交換が行われた。

主な質問、意見等は以下のとおり。

統計センターの持つ能力、将来をにらんだニーズの両面から、在るべき姿を提案していくことが必要。

統計制度改革における課題への対応など、今後期待される役割に対し、統計センターが対応するにはどうするか、大きなビジョンを持つことが必要。

製表業務においては、正確なアウトプットをより早く出す、ということも重要。効率的な調査方法等について、製表側から提案してもよいのではないか。

統計センターにとっての顧客は誰なのか。統計局や他の省庁を顧客として捉えることも考えられるが、もっとその先にいる最終ユーザーを顧客と捉えて、その満足度を最大化することを考える必要があるのではないか。

人員削減等の効率化を進める中で新たなニーズに対応するためには、何かを捨てる判断も必要であり、その点を議論することも重要。

統計は国民がコストを負担して作っている大切なものであり、より見やすく、使いやすい結果を出していく、という利便性の観点からの検討も必要。

次回以降の議論に向け、基本的な考え方、コンセプトを事務局から提示していただいた上で、現在の業務状況等の実態を踏まえた議論を行いたい。

(6) 次回の研究会は、4月24日(月)13:00から開催予定。